

- ・情報処理の様々な技術をMODISデータの解析、利用という面で横断的に活用できるようにする

＜今後、期待される研究成果＞

- ・環境モニタリングを活用した持続的環境利用法の提言。
- ・MODISデータの高次処理を推進し、東アジアの環境景観図を作成する。

＜プロジェクトの評価体制（自己評価、外部評価を含む）＞

総括班で評価委員会を組織し、自己点検を本年から実施する。また、本年度末に開催されるシンポジウムまでに外部評価委員を選定し、年度末に評価を受ける。評価は最終年度まで年度ごとに実施する。

学術フロンティア共同研究は、5年間の計画のうちの前半を終え、後半の4年目に入った。平成15年3月に実施した国際シンポジウムは、中間報告会として企画され、各プロジェクトの研究概要を議論するとともに、共同研究を実施している中国、台湾、タイから招待講演者を迎え、情報交換を行った。平成14年度に文部科学省による研究進捗状況の実地調査が行われ、平成15年5月に中間評価結果として総合評価[A][A]を受けた。今後の取り組み方として指摘されたことを以下に要約する。

ひとつは、初期段階では細分化されたチームで研究を推進することが重要であるが、今後は研究の方向性を明確に定め、プロジェクト内、プロジェクト間の連携を深める必要があるとの指摘である。次に、国際的な研究プロジェクトであるので、さらに多くのアジア諸国の多くの研究機関と連携を図り、研究を発展させることが期待されている。そして、大学院生、リサーチ・アシスタントなどの参加を積極的に進め、更なる若手研究者の育成を図ることが本事業の使命の一つとして上げられている。

2 研究における国際連携

（1）国際的な共同研究への参加状況

現状の説明

前述の学術フロンティア研究は、国際的な共同研究と位置づけられており、中国、台湾、タイ国などの研究者との共同研究を実施している。